

医論172

(別紙様式第3号)

## 論 文 要 旨

論 文 題 目

IMPAIRMENT OF HOST IMMUNE RESPONSE AGAINST  
*STRONGYLOIDES STERCORALIS* BY HUMAN T CELL  
LYMPHOTROPIC VIRUS TYPE 1 INFECTION

(ヒト T 細胞向性ウイルス 1 型による糞線虫に対する宿主免疫反応の障害)

氏 名

平岡 哲生









平成18年5月8日

(別紙様式第7号)

論文審査結果の要旨

報告番号	課程博 * 論文博 第 号	氏名	平田哲生
論文審査委員	審査日	平成18年5月2日	
	主査教授	森 直樹	(森)
	副査教授	田中勇悦	(田)
	副査教授	佐藤 良也	(印)

(論文題目)

IMPAIRMENT OF HOST IMMUNE RESPONSE AGAINST *STRONGYLOIDES STERCORALIS* BY HUMAN T CELL LYMPHOTROPIC VIRUS TYPE 1 INFECTION

(論文審査結果の要旨)

上記論文に関して、研究にいたる背景と目的、研究内容、および研究成果の意義と学術的水準について慎重に検討し、以下のような審査結果を得た。

1. 研究の背景と目的

糞線虫は熱帯、亜熱帯に広く分布し、わが国では沖縄県を含む南西諸島が浸淫地である。これまで糞線虫とヒトT細胞向性ウイルス1型(HTLV-1)との密接な関係が多数報告されてきたが、大規模な検討は少ない。このような背景の下、本研究は沖縄県における糞線虫の感染状況とHTLV-1の関連、更にHTLV-1との重複感染時における糞線虫に対する宿主の反応を明らかにするために実施された。

2. 研究内容

1991年から2004年間に琉球大学医学部附属病院第一内科に入院した患者中、普通寒天平板培地法で糞線虫検査を行い、かつHTLV-1抗体を測定した3360人を対象としそれぞれの感染率に関し検討した。また、1990年から2001年間にイベルメクチン100 µg/kgで治療を行った糞線虫症患者252例に対し、治療効果、血清IgE値、および末梢血好酸球数について検討した。

糞線虫と HTLV-1 の感染率：対象症例は男性 2000 例、女性 1360 例で平均年齢は 54.9 歳であった。糞線虫の感染率は男性 7.8%、女性 4.3%で有意に男性が高かった。糞線虫陽性者の 95%は 50 歳以上であった。HTLV-1 の感染率は男性 12.8%、女性 15.9%で有意に女性が高かった。50 歳以上の HTLV-1 感染者と非感染者の糞線虫感染率を比較すると、それぞれ 16.3%、7.6%であり、有意に HTLV-1 感染者において糞線虫感染率が高い結果となった。

イベルメクチン治療症例の検討：治療 1 年後の駆虫率は HTLV-1 感染者 50%、非感染者 92.7%であり、有意に HTLV-1 感染者において治療効果が低下していた。血清 IgE 値は HTLV-1 感染者では  $587.5 \pm 442.6$  IU/mL、非感染者  $1116.2 \pm 836.5$  IU/mL であり、有意に HTLV-1 感染者において IgE 値が低値であった。好酸球数も同様に HTLV-1 感染者  $381.6 \pm 222.7 /\mu\text{l}$ 、非感染者  $593.3 \pm 891.0 /\mu\text{l}$  であり、有意に HTLV-1 感染者で低値であった。

以上、HTLV-1 感染者においては、非感染者と比較し、①有意に糞線虫感染率が高い、②血清 IgE 値、および末梢血好酸球数が有意に低い、および③イベルメクチンによる駆虫率が有意に低いことが明らかとなった。

### 3. 研究成果の意義と学術的水準

本研究は HTLV-1 感染者における糞線虫に対する反応を比較的大規模に検討したものである。特に血清 IgE 値、および末梢血好酸球数の多症例での解析はこれまでに報告されていない。本研究は HTLV-1 感染の糞線虫に対する影響を解明した貴重な報告であり、かつその研究成果は国際的にも認められる高水準のものであると評価される。

以上により、本論文は学位授与に十分値するものであると判断した。

- 備考
- 1 用紙の規格は、A4とし縦にして左横書とすること。
  - 2 要旨は800字～1200字以内にまとめること。
  - 3 \*印は記入しないこと。